

数学

京都大学[文系] (前期)

<全体分析>

試験時間

120分

解答問題数

5題

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

出題の特徴

見掛け上、証明問題は[5]の1題だけだが、他の問題も論理的に表現する力が要求されている。全問、新旧両課程の共通分野からの出題であった。

その他トピックス

[2]が理系[2]と共通問題、[5]が理系[5]と類似問題であった。

小問誘導による出題が昨年は2題あったが、本年はなかった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	積分法	数学II	条件を満たす領域を図示し、その面積を求める。	標準
[2]	図形と計量、式と証明	数学I 数学II	四角形の 90° の内角が隣り合うときと隣り合わないときの場合分けをする。	標準
[3]	確率	数学A	条件を満たす最短の経路の確率を求める。	標準
[4]	空間ベクトル	数学B	空間における定点と球面上を動く点を結ぶ直線が、 xy 平面と交わる点の存在する領域を求める。	標準
[5]	整数、式と証明	数学A 数学II	商と余りを設定し、整数の性質を用いて(余り)=0を示す。	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

標準的な問題を確実に解く力をつけ、論理的に表現する力をつけておきたい。基本的に小問により誘導されない問題なので、自分で解法の糸口が見つけられる学力をつけておかなければならない。